

azbil

第93期 株主の皆さまへ

2015年3月期

上半期事業報告書

2014年4月1日～2014年9月30日



証券コード:6845

アズビル株式会社
(旧:株式会社山武)



代表取締役社長

曾瀬 竜純

代表取締役会長

小野木 聖二

国内市場の構造変化への対応と グローバル展開を確実なものとするため 事業・業務構造の変革を加速

■ 前年同期比で 受注・売上・利益がともに伸長

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当上半期におけるわが国の経済は、消費増税後の反動で個人消費が一時落ち込んだこと等もあり、緩やかな回復にとどまりました。海外経済におきましては、欧州や一部新興国において景気の鈍化が見られましたが、中国等では、景気拡大のテンポは緩やかになっているものの依然堅調であり、米国経済も拡大いたしました。

このような事業環境の中、当azbilグループ

は、「人を中心としたオートメーション」の理念のもと、製品・技術・サービスを活用したazbilグループならではのソリューションで事業を展開してまいりました。この結果、当上半期における受注高は、ライフオートメーション(LA)事業が減少しましたが、ビルディングオートメーション(BA)事業、アドバンスオートメーション(AA)事業が伸長し、前年同期比8.1%増加の1,487億6千8百万円となりました。売上高は、BA、AA事業を中心に全てで増加し、全体で前年同期比4.0%増加の1,156億9千9百万円となりました。損益面につきましては、BA事業、AA事

■中期経営計画骨子

計数目標 2016年度 売上高 2,800億円、営業利益 220億円

3つの**基本**方針

- 顧客・社会の長期パートナー
- グローバル展開
- 学習する企業体

3つの**成長**事業領域

- 次世代ソリューション
- 安心・安全ソリューション
- エネルギーマネジメントソリューション

3つの**体質**強化

- グローバル生産・開発の構造改革
- エンジニアリング、サービス事業の構造改革
- 人材リソース改革

グローバル(国内外)での成長を目指す

国内外共通の領域で、技術・製品を基盤としたソリューション展開

国内：市場は成熟化が進む一方で質的転換が進む

- 既存事業の効率化、高付加価値化
- 製品、サービスのポートフォリオを拡大し、成長分野を開拓・拡大

海外：地域毎に要件は異なっても基本ニーズは共通

- 実績ある事業・成長領域向けの商品(製品・サービス)を日本を含めてグローバルに展開
- 地域毎のソリューション体制(営業・開発・エンジニアリング・サービス)を強化

事業活動の基盤 ● CSR経営、健全な財務基盤とコーポレートガバナンスの確立
● グループ理念「人を中心としたオートメーション」

業は、増収に加え原価改善等により、基幹情報システムの更新に係る費用や研究開発費の増加がありました。一方、LA事業は採算性の厳しい案件があったことから減益となりました。全体としては、営業利益が35億9千万円(前年同期比46.1%増)、経常利益が44億8千万円(前年同期比62.2%増)、四半期純利益は21億7千万円(前年同期比112.6%増)と、いずれも着実に伸ばいたしました。

課題の克服と環境変化に対応した事業体制の再構築・整備

azbilグループは、現在2016年度に向けた上掲の中期経営計画を進めております。当上半期においても、顧客とのライフサイクルの関係を通じた事業へのシフト及びグローバルでの事業展開が進捗し、グローバル化と国内市場の構造変化に向けた体制整備・人材の再配置でも大きな成果を見ることができました。BA、AA、LA各事業を取巻く環境は日々大きく変化してお

ります。azbilグループでは現中期経営計画の目標達成はもちろんのこと、更にその先に予想される環境変化を見据えて、その対応に向けた事業体制の再構築と整備を進めております。

具体的には、BA事業では、首都圏を中心とした再開発案件や省エネ等を目的とした既設建物の改修需要が活況を呈していますが、今後更に、2020年のオリンピック/パラリンピックの開催に触発された需要の拡大も期待されます。こうした国内需要の伸長を確実に捉えていくため、ジョブ管理・処理体制の整備を進めてまいりました。リモートメンテナンスを含むサービス体制等、海外における事業基盤の整備と合わせ、中期経営計画目標達成から、更に次期の成長に向けて、そのスピードを加速いたします。AA事業では、国内装置産業の成熟化や顧客の新領域への事業転換、海外移転の加速等、市場構造の変化が急速に進んでおります。こうした変化に対応するため、既存事業分野での事業効率化とともに、装置メーカーやFA産業向け、

あるいはLNG等のエネルギー転換需要に係る事業といった成長領域への人員を含めたリソースのシフトを進めています。ソリューションバルブ事業等の特長あるグローバル展開と合わせ、市場構造の変化に備えた一層の体制整備を進めてまいります。LA事業では、ライフサイエンスエンジニアリング(LSE)分野において事業環境の厳しさ等に起因する損失が発生しましたが、製薬向け装置事業等のコア事業への経営資源の集中、事業再編と拠点統合による管理コストの低減等、事業構造と業務構造の変革を加速し、課題の解決を図ります。あわせて、その他LA事業構成分野の強化も進め、この事業全体での収益性の改善を図ってまいります。

株主の皆様へ ～通期見通し、配当について

BA事業を取り巻く環境は堅調に推移しており、新設市場の活況や電気料金値上げ等による省エネ需要を捉えたソリューション展開等で着実な伸長を見込んでおります。AA事業におきましては、国内プラント向け制御システムの領域は厳しい状況ですが、サービス分野や装置メーカー等における市場は引き続き堅調な見通しであり、海外市場における順調な拡大と新製品・ソリューションによる施策展開の成果も見込まれます。LA事業におきましては、LSE分野を除く各分野は一部を除いて概ね計画通りですが、LSE分野が厳しい事業環境の影響を受けております。

このような事業環境の見通し及び上半期業績結果を踏まえて、BA事業で売上高と利益、

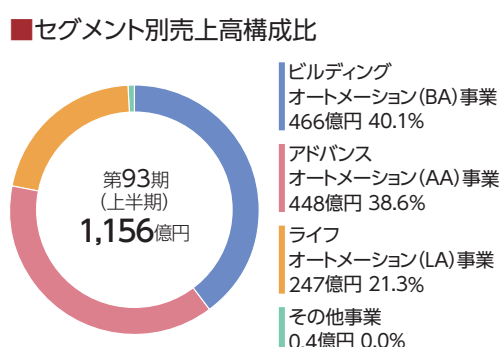
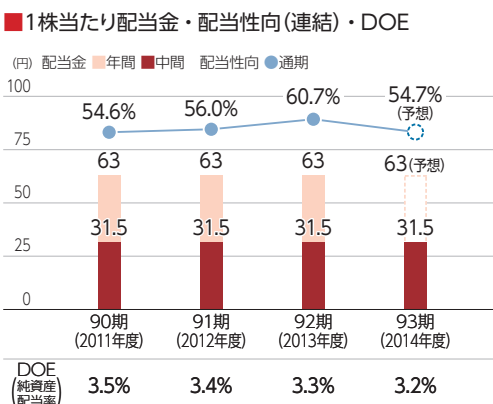
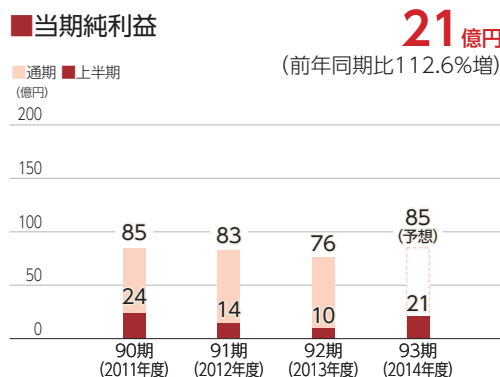
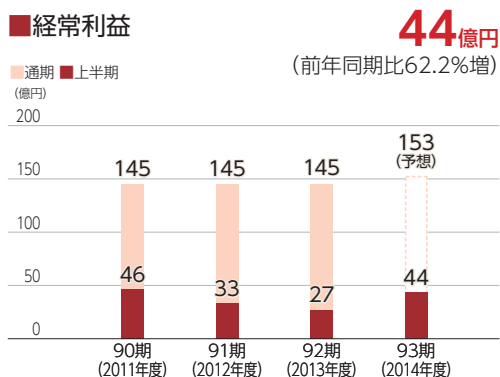
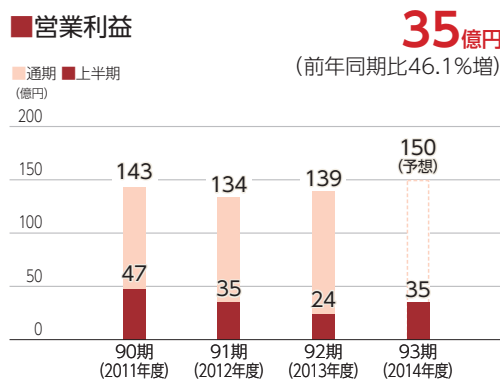
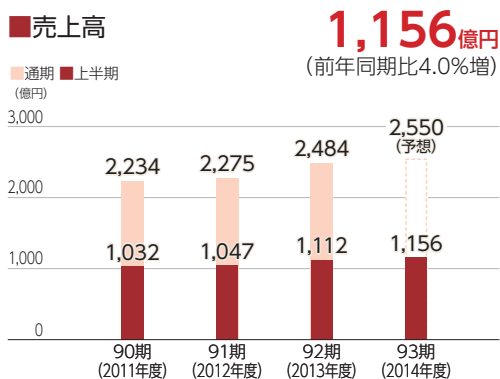


AA事業で利益を上方修正いたしますが、LA事業は、LSE分野において、上半期比で改善を見込むものの、その事業環境を鑑み下方修正いたします。このため、全体としては、期初計画比で、売上高は50億円(1.9%)減少の2,550億円とし、損益面では、営業利益は5億円(3.2%)減少の150億円、経常利益は3億円(2.0%)増加の153億円、当期純利益は計画通りの85億円といたします。

配当につきましては、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けた利益配分に関する基本方針に基づき、1株当たり31.5円の間配当を実施いたします。期末配当も期初の公表予想どおりの1株当たり31.5円、年間では1株当たり63円の配当予想とさせていただきます。

azbilグループは、「人を中心としたオートメーション」の探求を通じ、お客様とともに現場で価値を創造することで企業価値を向上させ、株主の皆様のご期待にお応えしていきたいと考えております。今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

- 売上高は、BA、AA事業を中心に全てで伸長し、前年同期比4.0%増加の1,156億円
- 営業利益はBA、AA事業が費用増を吸収して増益、前年同期比46.1%増加の35億円



※各セグメントにはセグメント間の内部取引(6億円)が含まれています。

※ azbilグループの売上高は、下半期に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年上半期の利益は下半期に比べて低くなる傾向があります。

BA

ビルディングオートメーション事業

あらゆる建物に求められる快適性や機能性、省エネを独自の環境制御技術で実現。快適で効率のよい執務・生産空間の創造と環境負荷低減に貢献します。



売上高

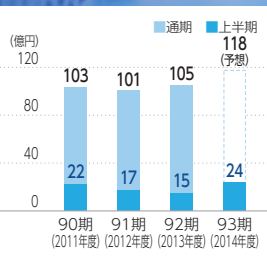
466億円

(前年同期比3.6%増)

セグメント(営業)利益

24億円

(前年同期比60.2%増)



※ 各数値には、セグメント間の内部取引高が含まれております。

昨年度からの 国内建設市場の好調を背景に 新設、既設、サービスの各分野で増収



国内市場におきましては、景気回復及び電力料金値上げに伴う省エネ需要の拡大により、建設投資が活性化

しております。昨年から続くこの好調な事業環境を背景に、新設建物、既設建物、サービス、それぞれの分野で前年同期に比べて増収となりました。

海外市場におきましては、政情不安等によりタイ及び中国で減収となったものの、ローカル市場の開拓が進んだシンガポールなどアジア各国で売上が伸長し、海外全体としては前年同期並の売上高を確保いたしました。

この結果、BA事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、466億9千9百万円と前年同期に比べて3.6%の増加となりました。セグメント利益(営業利益)は、国内市場において、新設に加えて採算性の良い既設、サービスの分野が拡大し増収となったこと及び、施工収益改善の取組み効果により、24億8百万円と前年同期に比べて60.2%の増加となりました(前年同期は15億3百万円のセグメント利益(営業利益))。

AA

アドバンスオートメーション事業

工場やプラントなどにおいて、先進的な計測制御技術を発展させ、安全で人の能力を発揮できる生産現場の実現を支援。お客様との協働を通じ、お客様の新たな価値を創造します。

売上高構成比
AA事業
38.6%

売上高

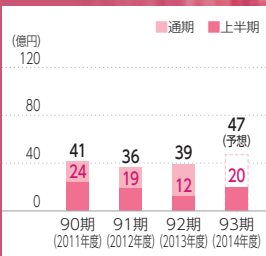
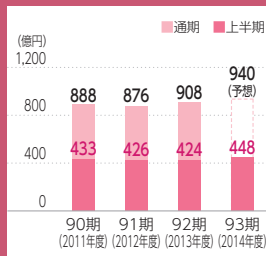
448億円

(前年同期比5.6%増)

セグメント(営業)利益

20億円

(前年同期比60.9%増)



※ 各数値には、セグメント間の内部取引高が含まれております。

国内外の装置メーカ向け制御機器分野が好調に推移し、増収増益



内市場におきましては、顧客生産設備の海外シフト等の影響により、製造業の設備投資の回復は限定的なものにとどまりましたが、装置メーカ向け制御機器の分野では市況の改善に加えて大型案件の受注もあり大きく増加いたしました。また、各種プラント向けの現場型計器やコントロールバルブ、システム製品の販売・サービスは、引き続き厳しい状況にあります。エネルギー転換を起点としたガス市場での事業伸長と、保守・メンテナンス関連の需要を着実に取込み、前年同期並の売上高を確保いたしました。

海外市場におきましては、前年同期に大きな案件があった台湾がその反動で減収となり、政

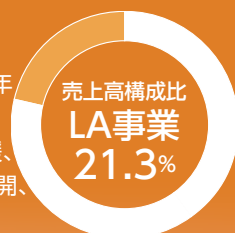
情不安や政権交代によりタイ及びインドネシアでの売上が減少となりました。一方、欧米や中国、韓国等において装置メーカ向け制御機器の売上が引き続き好調に推移し、海外全体として増収となりました。

この結果、AA事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、448億5千1百万円と前年同期に比べて5.6%の増加となりました。セグメント利益(営業利益)は、装置メーカ向けを主とした国内外での増収により、20億1千万円と前年同期に比べて60.9%の増加となりました(前年同期は12億4千9百万円のセグメント利益(営業利益))。

LA

ライフオートメーション事業

建物・工場・プラントや生活インフラの領域で永年培った計測・制御・計量の技術やサービスを、ライフライン、住宅用全館空調、介護・健康支援、ライフサイエンス研究、製薬・医療分野などに展開、「人々のいきいきとした暮らし」に貢献します。



売上高

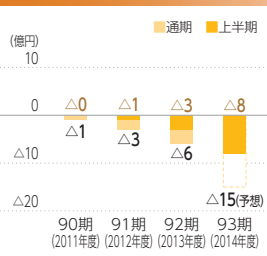
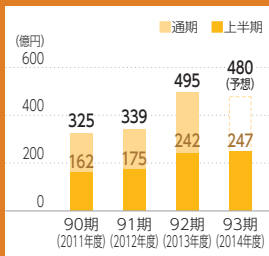
247億円

(前年同期比2.1%増)

セグメント(営業)利益

△8億円

(前年同期営業利益△3億円)



※ 各数値には、セグメント間の内部取引高が含まれております。



LSE分野を除く全ての分野が増収となり、全体の売上も伸長したが、損益面では、LSE分野での損失計上を主因に全体として減少

ガ ス・水道メータの分野におきましては、都市ガスメータ及び水道メータの販売が伸長し、LPガスメータが需要サイクルの影響で減収となったものの、全体として増収となりました。

ライフサイエンスエンジニアリング(LSE)の分野におきましては、南米等の地域において景気減速や競争の激化等、厳しい事業環境となりました。このため為替の好影響を含めても売上高はほぼ前年同期並にとどまりました。

健康福祉・介護の分野におきましては、新規契約の獲得、新しい総合サービスの展開^{※1}

等の施策に取組み、売上が増加いたしました。

住宅用全館空調システムの分野におきましては、住宅メーカ向けの積極的な営業施策が奏功し、売上が増加いたしました。

この結果、LA事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は247億6千6百万円と前年同期に比べて2.1%の増加となりました。損益面では、事業環境の厳しさが増したLSE分野での営業損失計上を主因^{※2}に、セグメント損失(営業損失)は8億4千1百万円(前年同期は3億6百万円のセグメント損失(営業損失))となりました。

※1 10ページ「News & Topics」で詳細をご紹介します。

※2 LSE分野については、主体となるアズビルテルスター有限会社の事業体質の強化策を年度内に進め、2015年度における業績回復を目指しております。

海外での事業展開

日本で蓄積した経験や技術・ノウハウを活かし、BA、AA、LAの3事業を展開しています。地域ごとに異なるお客様の課題やニーズに応じて最適なソリューションを提供します。

海外売上高

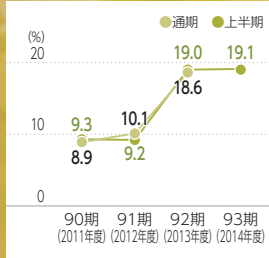
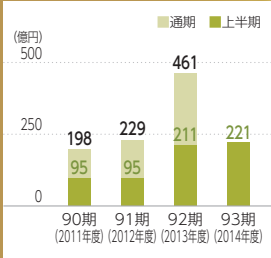
221億円

(前年同期比4.8%増)

海外売上高比率

19.1%

(前年同期比0.1%増)



※海外売上高は各セグメントの内数を合計したものです。現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでおりません。

売上高は前年同期比4.8%の伸長 事業基盤の整備が着実に進捗

a zbilグループは、中期経営計画の目標達成に向け、海外における事業展開においては、拠点設立や体制整備による「地域の拡大」及び技術・製品を基盤としたソリューションビジネスへの「質的な転換」を進めております。当上半期におきましても、BA事業における海外建物に対するサービスの高度化を実現するリモートメンテナンスのためのネットワークインフラの構築※やAA事業における中東地域にソリューションバルブ事業を展開する要となる工場の完成等、顧客の長期パートナーとして、現地のニーズに応じた製品・サービスを提供するための開発・生産からエンジニアリング、サービスに至るまでの事業基盤整備が着実に進捗いたしました。

売上高に関しましては、BA事業においては、政情不安等が影響し、エリア毎に差異があったものの、ローカル市場の開拓が進ん

だシンガポール等のアジア各国が伸長し、前年同期並の売上高となりました。AA事業においては、国毎、市場毎に違いはあったものの、顧客ニーズに応じたカスタマイズ力が評価されたこと等により装置メーカー向け制御機器の売上が拡大し、増収となりました。LA事業においては、一部の分野で事業環境が厳しさを増したことを主因に減収となりました。海外全体としては、前年同期比10億円(4.8%)増加の221億円となりました。

今後も経済環境はエリアによっては不透明感があるものの、持続的な成長を創出する事業基盤としての体制整備を一段と進めるとともに環境の変化に対応していくことで、3つの基本方針の1つである「グローバル展開」をBA、AA、LA事業ともに強化・加速してまいります。

※9ページ「News & Topics」で詳細をご紹介します。

海外建物へのリモート メンテナンスサービスを開始

海外でのビルディングオートメーションシステム納入増加に伴い、海外建物に接続できる新たなネットワークインフラを構築し、遠隔モニタリング(リモート)でのメンテナンスサービスを開始しました。高度な診断技術を持つ日本国内のエンジニアが技術支援やデータ解析などのサポートを行い、海外現地法人スタッフとの連携を図ることにより、海外のお客様にも、日本で培った高品質のサービスやソリューションの提供が可能となります。日本からのリモートによる故障診断、設備制御診断、省エネ診断を行い、海外現地法人により点検、復旧、コンサルティングの対応を実施します。本サービスは、タイ、ベトナム、シンガポールでの運用を開始し、今後、他エリアでの展開を計画しています。



ビルの総合管理・保安を行う遠隔監視センター

海外の大規模複合施設向け 統合型ビルディングマネジメントシステムを販売開始

海外向けの統合型ビルディングマネジメントシステム[savic-net™ for Integrated Building Management Systems (以下savic-net for IBMS)]を販売開始しました。savic-net for IBMSは空調、電気、衛生、照明に加え、防災、エレベータ、エスカレータ、駐車場などの各種設備管理システムを一括管理します。他社の管理システムを含め多様な設備管理システムとの接続容易性を実現するため、国際標準の通信プロトコルに対応し、また日本国内で豊富な実績を有する当社製ビル管理用アプリケーションの搭載により、大規模施設への効率的・高品質な設備管理やエネルギー管理、テナント情報管理などを支援します。

全館空調システムの電子式エアクリーナ性能を試験、 PM2.5の99%除去を確認

戸建て住宅用全館空調システム[きくばり™]について、日本電機工業会の自主基準(HD-128)に基づく第三者機関の試験を実施し、微小粒子物質(PM2.5)に対する一定の除去性能を有し、「0.1μm～2.5μmの粒子を99%除去する※1」という結果が得られました。「きくばり」に搭載された電子式エアクリーナ※2は空気中の粒子を静電気で吸着するため、捕集効率が大変よく、一般的な家電のエアクリーナの10倍以上の処理能力を持っています。「きくばり」は、1台の空調システムで家中を空調、空気清浄するため、居室はもちろんのこと廊下や脱衣所も温度差が少なくヒートショック・熱中症のリスクを低減できるほか、間仕切りの少ない開放的な間取りでも快適に過ごすことができます。

※1 一定条件下での性能結果となります。詳細はリリースサイトの注釈をご参照ください
<http://www.azbil.com/jp/news/140910.html>。

※2 「きくばり」の電子式エアクリーナは、機種によってオプションのご案内となります。



住宅用全館空調システム(概念図)

Topics

アズビルあんしんケアサポート(株)、 千葉県若葉区で 「定期巡回・随時対応サービス」を開始

azbilグループで健康福祉・介護事業を展開するアズビルあんしんケアサポート(株)は、千葉県若葉区の介護サービス事業所「かたくりTM都賀」で、新たに「定期巡回・随時対応サービス(定期巡回・随時対応型訪問介護看護)」を開始しました。本サービスは、訪問介護と訪問看護が連携し、定期的に利用者宅をヘルパーや看護師が訪問し、必要な介護、看護、見守りをしながら、ご本人や家族からの連絡をオペレータが24時間365日受けられる体制を取り、必要に応じて随時訪問サービスを行うものです。アズビルあんしんケアサポートでは、本サービスを千葉県若葉区ほか熊本県熊本市、東京都大田区でも展開しており、「地域包括ケアシステム」*の実現を目指し高齢者が安心して在宅生活できるよう支援していきます。

* 介護が必要になった高齢者に、医療、介護、予防、住まい、生活支援などを包括的に提供する支援体制のこと。



東京都大田区のサービス事例

ソリューション型バルブメンテナンス事業を拡大する 「バルブメンテナンスセンター」を開設

国内5箇所の事業所(鹿島営業所・千葉営業所・四日市営業所・水島営業所・香春技術センター)内に「バルブメンテナンスセンター」を開設し、ソリューション型バルブメンテナンス事業の拡大に向けた体制を整えました。本センターは当社が長年のバルブ関連事業で培った技術やノウハウを集約したもので、国内全域のお客様に最適なソリューションを提供します。従来の体制を強化しセンター間で専門技術者や作業場所及び機材を相互補完することで、機動的に対応できる運用体制としました。また、バルブの点検・整備といったメンテナンスだけでなく、専門技術者の診断・解析による正確な状態把握から保全計画の提案を行う診断サービスなど、バルブのライフサイクルを通じて適正な保全サイクルが回るようお客様を支援し、プラントの安定稼働と安全に貢献します。

国際標準に準拠した校正証明書付きの電磁流量計を販売開始

国際標準ISO/IEC 17025に準拠した校正結果であることを証明するJCSS*校正証明書付き電磁流量計MagneWTM3000FLEX+(マグニュー3000フレックスプラス)を販売開始しました。製造メーカーの海外進出に伴い、薬品や化学などのプラントで使用される計測器では、製品の品質を保証するため、国際標準に適合した校正が求められるようになっていきます。当社はJCSS校正事業者として登録されると同時に、国際的な相互承認協定の対応事業者としても認定されているため、今回のJCSS校正証明書付きの電磁流量計は、国際標準に適合した校正が実施済であることの証明が可能で、お客様の設備管理業務の効率化を支援します。

* Japan Calibration Service Systemの略で、計量法に基づき、計測や品質管理の信頼性を確保することを目的に導入された校正事業者を登録する制度。

Side Stories

ベトナム

Mandarin Garden 様

納入事例

高度な統合管理システムの導入で 大型複合施設の安全・快適を支える

鉄鋼事業や家具・建材の製造事業などを展開するベトナムでも有数の企業グループであるHOA PHAT（フォア ファット）グループ様が新たに建築したMandarin Garden様は、ベトナムの首都ハノイの中西部、Hoang Minh Giam通りにある地下2階、地上21～30階建ての大型複合施設です。高層ビルが9棟立ち並び、それらには住戸のほか、学校や商業施設、スポーツ設備などのテナントも入居しています。HOA PHATグループ様では、空調をはじめ、施設内にある自動車用セキュリティゲート、館内放送、監視カメラ（CCTV）、電話・インターネットを含む各設備を統合管理できるシステムの導入を決定。採用されたのがアズビル（株）の建物管理システム savic-net™FXでした。他社システムであるエレベータや発電機などの情報も取り込み、建物内の様々な設備の状態や警報を一元管理・監視できるようになったことで、現場の作業負荷を最小化することができました。更にオペレーションに必要なトレーニングやサポートも実施することで、日々の運用までをしっかりとサポート。安全性、利便性、快適性を支える高度な日本の品質を提供しています。



オペレーションのトレーニングをはじめとするアズビルベトナム(有)の担当者によるサポートが、現場オペレータに大きな安心を提供しています。



私が提案しました

アズビルベトナム(有) Quang Hong Nguyen

アズビルベトナム有限会社は、メーカーの異なる周辺システムのとりまとめを担当し、運用に関してはオペレータへのトレーニングを実施しました。Mandarin Garden様には、一連のマネジメント力、技術力、システムなどの製品の優位性に加え、オペレータへのトレーニングを含めた日本の品質を高くご評価いただきました。Mandarin Garden様では、savic-net FXを中心とする自動制御の活用で、空調機の運転停止及び設定値管理、広範囲エリア照明や給排気ファンのON/OFFなど環境品質を高い次元で実現しながら、人的作業負担や、消費エネルギーの削減が実現されています。今後、この自動制御の適用範囲を広げて、更なる効率化、省エネ化を目指し、ベトナム国内のビルにおける高機能な大型複合施設の一つの先進事例として展開したいとMandarin Garden様から期待されています。アズビルベトナムとしてその期待に応えるべく継続して提案活動を行うことに大きな達成感を感じています。

連結財務諸表 CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科 目	前期末	当上半期末
	平成26年3月31日現在	平成26年9月30日現在
資産の部		
流動資産	189,377	174,976
固定資産	64,070	64,783
有形固定資産	24,501	24,958
無形固定資産	12,950	12,864
投資その他の資産	26,618	26,960
資産合計	253,448	239,759
負債の部		
流動負債	87,356	75,373
固定負債	21,112	14,229
負債合計	108,469	89,602
純資産の部		
株主資本	139,349	144,179
資本金	10,522	10,522
資本剰余金	17,197	17,197
利益剰余金	114,275	119,106
自己株式	△ 2,646	△ 2,647
その他の包括利益累計額	3,966	4,630
新株予約権	2	2
少数株主持分	1,660	1,344
純資産合計	144,978	150,156
負債純資産合計	253,448	239,759

連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	前上半期	当上半期
	平成25年4月 1日から 平成25年9月30日まで	平成26年4月 1日から 平成26年9月30日まで
売上高	111,286	115,699
売上原価	73,870	76,208
売上総利益	37,416	39,491
販売費及び 一般管理費	34,958	35,900
営業利益	2,457	3,590
営業外収益	667	1,163
営業外費用	363	273
経常利益	2,761	4,480
特別利益	45	120
特別損失	184	481
税金等調整前 四半期純利益	2,622	4,119
法人税、住民税 及び事業税	714	730
法人税等調整額	902	1,271
少数株主損益調整前 四半期純利益	1,004	2,117
少数株主損失(△)	△ 15	△ 53
四半期純利益	1,020	2,170

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (単位：百万円)

科 目	前上半期	当上半期
	平成25年4月 1日から 平成25年9月30日まで	平成26年4月 1日から 平成26年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,805	2,851
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,300	△ 4,924
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,157	△ 2,914
現金及び現金同等物に 係る換算差額	928	△ 213
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	2,275	△ 5,200
現金及び現金同等物の 期首残高	56,050	55,844
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	36	423
現金及び現金同等物の 四半期末残高	58,362	51,067

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科 目	前上半期	当上半期
	平成25年4月 1日から 平成25年9月30日まで	平成26年4月 1日から 平成26年9月30日まで
少数株主損益調整前 四半期純利益	1,004	2,117
その他の包括利益	2,417	602
その他有価証券評価差額金	933	1,500
繰延ヘッジ損益	△ 0	0
為替換算調整勘定	1,484	△ 1,063
退職給付に係る調整額	—	165
四半期包括利益	3,422	2,720
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,222	2,834
少数株主に係る四半期包括利益	199	△ 113

概要

商号 アズビル株式会社
 英文商号 Azbil Corporation
 創業 明治39年(1906年)12月1日
 設立 昭和24年(1949年)8月22日
 資本金 105億2,271万6,817円
 従業員数 5,262人(連結 9,822人)

事業内容 azbilグループは、人々の安心・快適・達成感と地球環境への貢献を目指す「人を中心としたオートメーション」を追求し、建物市場でビルディングオートメーション事業を、工業市場でアドバンスオートメーション事業を、ライフライン、ライフサイエンス研究や健康等の生活に密着した市場において、ライフオートメーション事業を展開しております。

役員

取締役



代表取締役会長
 執行役員会長
 小野木 聖二
 azbilグループ(aG)
 全般統括 担当



代表取締役社長
 執行役員社長
 曾禰 寛純
 CEO、aG全般統括、
 グループ監査部、経営企画部 担当



取締役
 執行役員専務
 佐々木 忠恭
 社長補佐、aG-CSR、
 内部統制、施設・事業所、グループ経営管理本部、総務部、法務知的財産部、秘書室 担当



取締役
 執行役員常務
 不破 慶一
 ビルディングオートメーション(BA)事業、aG営業シナジー 担当、ビルシステムカンパニー (BSC) 社長 委嘱



取締役
 執行役員常務
 岩崎 雅人
 アドバンスオートメーション(AA)事業 担当、アドバンスオートメーションカンパニー(AAC)社長 委嘱



取締役
 執行役員常務
 北條 良光
 aG生産機能、aG購買機能、プロダクションマネジメント本部 担当、プロダクションマネジメント本部長 委嘱



取締役
 (社外取締役)
 ユージン リー



取締役
 (社外取締役)
 田辺 克彦



取締役
 (社外取締役)
 伊藤 武

事業所

- ▶ 本社
 〒100-6419 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号(東京ビル)
- ▶ ビルシステムカンパニー
 東京本店、北海道支店、東北支店、茨城支店、北関東支店、東関東支店、横浜支店、長野支店、中部支社、北陸支店、関西支社、中四国支店、九州支店、その他全国営業所等
- ▶ アドバンスオートメーションカンパニー
 北海道支店、東北支店、北関東支店、東京支社、中部支社、関西支社、中国支店、九州支社、その他全国営業所等
- ▶ 工場 等
 藤沢テクノセンター、湘南工場、伊勢原工場、秦野事業所
- ▶ 海外支店
 中東支店、アプダビ支店

監査役

常勤監査役	松安 知比古	監査役	藤本 欣哉 (社外監査役)
常勤監査役	鋤崎 憲世	監査役	朝田 純一 (社外監査役)
		監査役	佐藤 英夫 (社外監査役)

執行役員(平成26年11月1日付)

執行役員常務	國井 一夫	ホームコンフォート事業 担当、ホームコンフォート本部長 委嘱
執行役員常務	杉野 芳英	aG研究開発、全社マーケティング、aG環境負荷改善、品質保証、安全審査部、環境推進部、技術標準部、バルブ商品開発部 担当、技術開発本部長 委嘱
執行役員常務	日高 謙二	AA事業営業 担当、AAC東京支社長 委嘱
執行役員常務	宮澤 光晴	サービス事業、グループ安全管理部 担当、BSC東京本店長、BSC環境ファシリテイションソリューション本部長 委嘱
執行役員常務	風戸 裕彦	BSC新事業開発(ライフオートメーション シナジー)、ライフサイエンスエンジニアリング(LSE)事業、LSE事業推進室 担当
執行役員	村瀬 則夫	法務知的財産部長 委嘱
執行役員	新井 弘志	aG業務システム 担当、業務システム部長 委嘱
執行役員	鈴木 祥史	国際事業、ドキュメント・プロダクション部 担当、国際事業推進本部長 委嘱
執行役員	友永 道宏	中国エリア統括 担当
執行役員	田村 春夫	BSC関西支社長 委嘱
執行役員	林 成一郎	BSC技術本部長 委嘱
執行役員	濱田 和康	BSC環境ソリューション事業、セキュリティ事業 担当、BSC環境ファシリテイション本部 副本部長 委嘱
執行役員	奥村 賢二	AACグローバル営業本部長 委嘱
執行役員	清水 洋	全社アドバンスコントロール事業 担当、AACエンジニアリング本部アドバンスソリューション部長 委嘱
執行役員	横田 隆幸	グループ経営管理本部長 委嘱
執行役員	成瀬 彰彦	人事部 担当、アズビル・アカデミー学長 委嘱
執行役員	林 健一	BSC事業管理部長 委嘱
執行役員	高村 哲夫	AACマーケティング部長 兼 AACグローバル営業本部 副本部長 委嘱

株式の状況

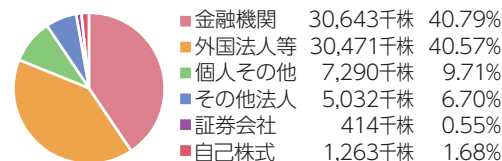
発行可能株式総数..... 279,710,000株
 発行済株式総数 75,116,101株
 株主数..... 9,265名

大株主

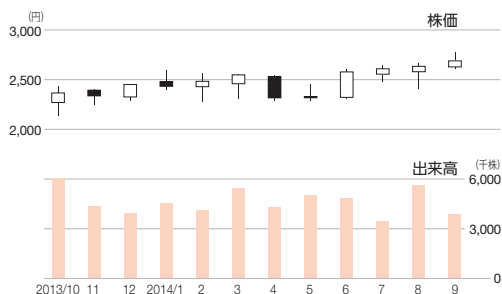
株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
明治安田生命保険相互会社	5,214	7.06
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	5,079	6.87
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	4,291	5.81
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	2,918	3.95
資産管理サービス信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ信託銀行口	2,315	3.13

(注)持株比率は自己株式(1,263,476株)を控除して計算しております。

所有者別状況



株価の推移



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会基準日	毎年3月31日
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
単元株式数	100株

公告方法	当社ホームページ (http://www.azbil.com/jp/ir/) に掲載しております。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人及び特別口座 口座管理 機関事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取方法の変更等)		みずほ証券 本店及び全国各支店及び営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店(みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

表紙写真

MERRY PROJECT代表 水谷孝次氏による「あいち・なごやESDフェスタ」。本年11月に開催された「ESDユネスコ世界大会」の半年前イベントとして、福島の子どもたちが作った笑顔の皿の展示やワークショップ、まちなかグリーンアップ、笑顔の傘のパフォーマンスを通して持続可能な社会づくりにとって大切な「笑顔」の存在意義を発信しました。(アズビル株式会社 協賛)



本上半期事業報告書は、次により記載しております。

1. 記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。
2. 千株単位の記載株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

azbil

人を中心としたオートメーション



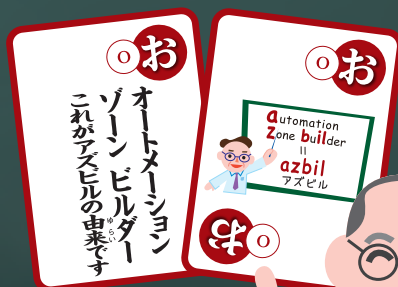
なんで「アズビル」って名前か知ってる?



それはね、「オートメーション技術を通じて価値を創造する」という意味が込められているんだよ。

automation・zone・builder

この言葉には、人を中心としたオートメーションで人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、「地球環境に貢献します」という思いが込められています。



創業者：山口武彦

かるたでアズビルのいろはを紹介ぜひご覧ください

アズビルかるた

検索

アズビル株式会社

〒100-6419 東京都千代田区丸の内 2-7-3 東京ビル TEL.03-6810-1006

注意事項

本上半期事業報告書に記載されている当社の現在の計画、目標等の事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報を基とする合理的な判断に基づくもので、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、様々な要因により、これら見通しと異なることがありますことをご承知おきください。

